

研究課題名	肺腺癌における TTF-1 (thyroid transcription factor-1) 発現と Pemetrexed の治療効果に関する検討
研究責任者名	広島大学病院 呼吸器内科 助教 益田 武
研究担当者名	広島大学病院 がん化学療法科 医科診療医 徳毛 健太郎
研究期間	2016年12月15日(倫理委員会承認後)～ 2019年3月
対象者	<ol style="list-style-type: none"> 2003年1月から2018年10月までに当院当科で非小細胞肺癌の確定診断が得られ、根治的手術が困難であるために化学療法が施行された患者さんのうち、病理組織で TTF-1 の発現の有無を評価できた患者さん 当院、JA 尾道総合病院、JA 広島総合病院でペメトレキセドまたはパクリタキセル、ドセタキセルとプラチナ製剤を併用したレジメンにより初回の化学療法治療を受けた患者さん
意義・目的	<p>ペメトレキセドは、現在非小細胞肺癌、特に肺腺癌に有効な抗癌剤の 1 つとして肺癌患者さんの多くに用いられています。ある海外の研究では肺癌の組織に TTF-1 というタンパクが確認された場合に、ペメトレキセドの効果がより強いことが示されました。ただ、これに関する研究は少なく、我々日本人での同様の研究は未だされていません。よって今回我々は、当院での過去の治療データをもとに、TTF-1 とペメトレキセドの治療効果の関連性を検証する研究を行います。</p> <p>本研究結果から、TTF-1 がペメトレキセドの治療効果を予測するための指標となるかどうかを検証することができます。またそれにより TTF-1 を調べることで、ペメトレキセドがより効果的である患者さんに選択的に投与できるようになる可能性があります。</p>
方法	<p>本研究は、診療録(カルテ)から得られた臨床データ及び肺癌組織のプレパラートを利用して研究を行います。診療録から使用するデータは年齢、性別、TNM 分類、喫煙歴、パフォーマンスステータス、EGFR 遺伝子変異の有無、使用した化学療法薬の詳細、奏効率、無増悪生存期間、全生存期間です。肺癌組織は必要に応じて追加で TTF-1 の免疫染色を行います。JA 尾道総合病院、JA 広島総合病院では臨床データとプレパラートを広島大学病院へ郵送して利用します。</p> <p>まず選定基準を満たす患者さんを調べ、TTF-1 陽性群と陰性群に分けます。続いて、奏効率、無増悪生存期間、全生存期間について比較検討を行います。</p> <p>(個人を特定可能な情報は解析に用いません。)</p>
共同研究機関	<p>JA 尾道総合病院 JA 広島総合病院</p> <p>広島大学病院に臨床データ、試料を郵送して集め、広島大学病院(研究責任者 益田武、研究担当者 徳毛健太郎)が解析します。</p>
試料・情報の管理責任者	広島大学病院 呼吸器内科 益田 武

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。調査内容は研究責任者、研究担当者のみが利用し、情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりすることなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。また JA 尾道総合病院、JA 広島総合病院の試料は研究終了後に返却します。

研究に臨床データや試料を提供したくない場合はお申し出ください。利用を停止します。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

TEL : 082-257-5196

広島大学病院 呼吸器内科 助教 益田 武

研究機関：広島大学